

“楽しさ”から“おもしろさ”へ ～探求し、思考する保育を目指して～ 心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成



研究にトキメキ、実践にヒラメキ

これから到来する Society5.0 時代には、自らが課題意識をもち、仲間と考え、探求し、創造していく力が求められます。そこで本園では、これまで研究を重ねてきた「自尊心」(心)と「からだ力」(体)を基に、思考力を育む研究を進めています。子どもたちがどんな「人・物・出来事」に心をトキメかせ、そこからどのようなヒラメキが生まれてくるのかを読み取り、トキメキやヒラメキを生む環境構成を検討しています。

研究の道のりは、決して平坦ではありません。時にモヤモヤ立ち止まり、行きつ戻りつ、試行錯誤を繰り返します。それでも、子どもたちと一緒に遊び、暮らす生活の中で、保育者自身もトキメキ、ヒラメキます。研究が実践の質を高め、実践の高まりが研究を深めていきます。研究と実践が一体となって高まるプロセスを描き出すことも、本研究の目的です。

研究のプロセス

①フォトチャット

保育者の「思考力の芽生え」の
視点や子どもの姿の捉えを深める

子どもの姿を
共有する

保育者同士のコミュニケーション
のきっかけをつくる



○子どもの姿の写真を貼ったホワイトボード（廊下に設置）



○「思考力」の観点からの読み取りや簡単なエピソードを添える。



4月10日 つみきで遊ぶ

Takatoshi Kiyama

②瀬川光治先生の研修

専門的な話を聞き
知識を得る

研修・研究の
スタイルを学ぶ

10の姿を丁寧に読み解こう！

10の姿の「思考力の芽生え」の内容
は2つの面から読み解くことができる。

- ①「多様ななかのわりをもつ」
- ②「自分の考えをより良くする」

創り出す環境

創り出す環境が子どもの思考力の芽生えに
つながります。



写真にタイトルを！

○タイトルから思考力の芽生えにつながるように

③保育カンファレンス

思考・探求する姿を捉える
視点や保育観を共有する

思考・探求する姿やその要因の
キーワードを導き出す



真似る

見立てる

素材の性質に気付く

試行錯誤する

伝え合う

予測する

こだわる

イメージを再現する

確かめる

変化を楽しむ

五感を使う

疑問を持つ

違いに気付く

色や形が様々な素材

わかりやすい目的

自在に変えられる素材

自分で操作できる遊具や用具

五感で感じられる素材

自然現象

こだわりを持つ友達

アイデアが豊富な友達

多様な道具

…思考・探求する姿

…遊びが面白くなるための要因

4歳児1学期

④保育わくワークシート

子どもの姿を詳細
に読み取る

子どもたちのトキメキとヒラメキに対して
保育者の感情構成や援助を読み取る

4歳児 5月16日～31日

♡トキメキ ☆ヒラメキ

○…子どもの遊んでいる様子

□…保育者の観察・保護構成

☞…保育者の思い、考え、ねがい



環境の再構成を子どもの姿に沿ったタイミングで行う

♡ 近くにいた子どもたちが集まってきて一緒にベットの周りに水をいれたい。PO「おもしろそうならここにすぐ来て欲しい！」

♡ 水の量が増えておぼつかないけれど、繰り返し注いで水を注ぎたい。

「どうしたらいいかな？」と問いかけながら、
一緒に立てた水を入れたりする。

それぞれの思っている
こと、考えている
ことを共有したい。

☆ 「おれるところまでおでめたらいいねん」という
意見に、みんなおでめでおめたらいいねん、
少しの間おめする！でも、すぐに倒れてしまっ
てしまう。

常に水をいっぱい
にして立てるのが
楽しいみたい。
自立するものを
用意しよう。

昨日のベットは倒れかけたのでおでめできなかった。
もう少しおでめのしっかりしたベットを用意する。

♡ 2人で、立てたベット周りに水をいれたい水を入れる。
自然と「おつ」「水を入れる」等、協力している。

♡ 見守る。

意図に添っている！
友達とやりとりしたり、力を
合わせていたりして楽しい。

♡ 身長くらいの高さの周りが満タンに！満足！



子どもの横に並びながら遊び、時に提案者になる

♡ 周や壁と壁のジョイント、ベットストロと壁と繋げていく、
バケツで水を注ぎ出していたが、長くなるにつれ、もう少し高さ
が足りなくなってくる。

♡ ビールケースがあることも知らせながら、どうするの問いかける。

☆ 前日のようにベンチを持って来て、
さらにビールケースも使ってみる。

子供が水出しつつ、
子どもたちの思い
で遊びをすすめて
ほしい。

♡ 水が溢れるようになり、繰り返し水を流す。

☆ 水が溢れていることに気付く。「ここでも
溢れる」「おでめよう」と考えを述べ、

気付きや考えを認め一緒に遊ぶ。



子どものトキメキとヒラメキが繰り返されている ♡☆☆☆☆

♡ 「海をつくりたい」「海に水を流したい」と
古い方のベット周りをビールケースに立てかけて、水を流す。
海が溢れるまで溢れ溢れに遊ぶ。

海になるようにと水を
流して大きくおぼける。

♡ 古いベット周りは高さがあったり、
壁が倒れやすかったりして、

一緒に遊びながら、遊んでいるところを一緒に
確認したり、「どうしたらいいかな？」と方法を考える。

☆ 「テープでめたらいいねん」という
考えが出て、試してみる。

うまくいかなかったら
試してみることに価値がある！

♡ 水が溢れると溢れ溢れ、壁が倒れやすくなり、



トキメキには「子とわらわら」(しんせい・はなれ)と書かれたとこに、横切る線が
マツダマシと書かれたとこからマツダの横切る線が伸びること、
ヒラメキには「マツダマシ」(マツダマシ)と書かれたとこに、横切る線が伸びること、

トキメキマシ ヒラメキマシ 横切る線は マツダマシマシ

先生自身も子どもとともにトキメキ、ヒラメキ



「ジャンプするの、楽しい！」
いろいろな色からジャンプができて
おもしろい。色の名前がわかるように
シール貼りのあるマットを用意しよう。
思ったくさんのジャンプ
マットのところに書いてみよう！



ジャンプの回数でジャンプ
マットを動かしてみよう！
ジャンプの回数でジャンプ
マットを動かしてみよう！
ジャンプの回数でジャンプ
マットを動かしてみよう！



ジャンプの回数でジャンプ
マットを動かしてみよう！
ジャンプの回数でジャンプ
マットを動かしてみよう！
ジャンプの回数でジャンプ
マットを動かしてみよう！

3歳児 10月

子どものトキメキに出た疑問の再確認



「おもしろいよ、おもしろいよ」
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ



「おもしろいよ、おもしろいよ」
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ

4歳児 9～10月

目的に応じて自由に遊びに取り入れる環境



「おもしろいよ、おもしろいよ」
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ



「おもしろいよ、おもしろいよ」
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ



「おもしろいよ、おもしろいよ」
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ

5歳児 8月

友達とトキメキとヒラメキを共有



「おもしろいよ、おもしろいよ」
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ



「おもしろいよ、おもしろいよ」
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ



「おもしろいよ、おもしろいよ」
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ
おもしろいよ、おもしろいよ

5歳児 9月

わかったこと

子どもの姿

- トキメキがヒラメキを生み出す
- 子どものトキメキとヒラメキが繰り返されている
- 友達とトキメキとヒラメキを共有

環境構成

- トキメキを生むためには
割り出すことのできる
環境構成が必要

目的に応じて自由に遊びに取り入れる環境

- トキメキの読み取りが環境構成のカギ
- 子どものトキメキに沿った環境の再構成

環境の再構成を子どもの姿に沿った
タイミングで行う

保育者

- 保育者は子どものヒラメキにトキメキ、
環境構成や援助をヒラメク
- 子どもの横に並びながら遊び、時に提案者になる
- 先生自身も子どもとともにトキメキ、ヒラメク

これから・・・

毎日のフォトチャットの継続

わくワークシートの活用

カンファレンスの活用

子どもの姿を読み取る目を鍛え続ける
(保育者一人一人の資質向上)

保育観・子ども観の共有
(同僚性の高まり)

思考・探求する姿のキーワードの抽出
(研究の展開)

心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成

保育に反映

- ・トキメキ・ヒラメキを引き出す教材の研究
- ・子どもの姿に沿った環境の再構成を実践

教育課程に反映

- ・抽出されたキーワードを
内容に落とし込む

探求し思考する子ども

わたしたち保育者の学び



子どもにびったり合うものでないといけないのでは…と考えすぎて、次の日につなげる環境構成を考えるのが苦手だった。しかし、他の先生が少しずつ環境を足し、予想通りにならなくても、その展開を子どもとともに楽しんでいる様子や、より楽しくなるように素材を足している様子などを聞くことで、子どもの姿ベースで少しずつ環境の再構成を積み重ねていくことを大事にしていきたいと改めて感じるようになった。(環境構成について)

一学期は特に子どもたちがそれぞれに遊んでいる姿をじっくり見るように気をつけた。これまでは、5歳児になったから友達と一緒に遊んで協同する姿に向かってほしいという思いが強かったが、子どもたちが一人一人自分なりの目的をもち遊ぶ姿の充実が重要だと感じ、一人一人のトキメキやヒラメキにできる限り寄り添うように意識した。(子どもの捉えの変化)



10の姿「思考力の芽生え」を読み進め理解を深める中で、自分には「自分の考えをよりよいものにするようになる」という視点が足りていないかと思った。それで、それぞれがじっくりと楽しみながらも、友達との関わりの中で気づきや考えを出し合って遊べるように、子どものしていること、考えていることを出し合ったりつなげたりできるような援助を意識するようになった。(視点の広がり・援助の変化)

研究会議を通して子ども一人一人の遊びの中での、小さな気づきや感動、驚き、ひっかかり、考えなどを、ちょっとしたことではなく、大きなこととして捉えようとするようになった。これまでも大切にはしてきたつもりだったが、それを捉える自分の目が、以前よりも細やかな視点で捉えられるようになったと思う。(視点の深まり)



今までは、楽しんでいることが存分に楽しめるように、もっと楽しくなるように、すぐに援助することが多かったが、援助する前にじっくり見守っていろいろな視点でみとるよう心がけ、援助すべきか考えたり悩んだりすることが多くなった。(視点の変化・援助の変化)

